



青年海外協力隊としてルワンダへ！

富士見市協働推進課 熊 あゆみ（2018年度2次隊 野菜栽培隊員）

Episode5 新入りのよそ者 ～農家さんとの活動～

Muraho.

今回は、私が行っている活動の一つを紹介します。

◆農家さん回り◆

現在、活動として、先輩隊員さんが紹介してくれた農家さんやコーペラティブと呼ばれる関係団体にほぼ毎日通い、栽培方法を見せてもらっています。「これって何の症状？」と植物のお医者さんになることもあれば、家庭事情を相談され、収入向上として野菜栽培からアプローチすることもあります。

◆農業畑ではなかった◆

私は農業系の大学・学科を卒業しましたが、ここ五年間は農業とあまり関わりのない仕事をしてきたため、ほぼ一から学ぶ状態。

そんな私にとって、JICA指定の三ヶ月間の技術補完研修が、自分の大きな支えになっています。

栃木県にあるアジア学院という職業訓練校で、世界約二十カ国から集まった学生やボランティアの皆さんと、自給自足の生活や有機農業、サーバントリーダーシップ（メンバーの自発的な心を尊重するリーダーとなる心）等を学びました。この学校で食事として出す九十%の食材は、私たちが育てるお米や野菜、

お肉でした。

今、ルワンダで回っている農家さんも、家畜を育て、堆肥を作り、育てた野菜は売ったりまた家畜の餌にしたり。まさに、持続的な生活がここにはあります。私が本で知るような内容も、代々家族が伝えてきた方法で、体に染み付いているのです。

◆日本との違い◆

その中でも、私は日本と違う野菜の栽培方法に興味を持ち、承諾いただいた農家さんに従来の栽培方法と日本の栽培方法とで比較してもらっています。また、害虫被害に困っていると聞いたため、農家さんが入手できるもので有機除虫薬を作り、経過を見ることができました。

進捗はというと、今のところ栽培方法は従来の方法が合っていたと感じています。また、害虫予防は農家さんが本当に必要としているかが気になっているところなんです。というのも、毎週二十四リットルもの除虫薬を二時間程度かけてまく作業。毎週「やっておいて」と私に言う農家さん。私は、その人が続けられることを考えたい。ときどき立ち止まることもあります。

◆正解はその人が決めるもの◆

日本の常識は常識ではない、と当たり前ですがい

つも感じます。

日本と違う方法を見たとき、私は理由を聞くようにしています。だいたい、聞けば納得できるものです。それにもかかわらず、私の提案を受け入れてもらっていることもあるのです。新しく来た知らない人、しかも「外国人」の私の提案を受け入れることほど、難しいことはないでしょう。農家さんに感謝するしかありません。



写真上…市場での様子。アマランサス一束、わずか五十ルワンダフラン(約六円)の値段でしか売れないという。現地の人にとっても少ない金額。
写真下…葉に要素欠乏の症状が出ていたトマト。完熟後の収穫を目指したい。

私より長い歴史を刻んできた農家さんの慣習を前に、今はとにかく発見の毎日です。いい意味で常識が覆されていて、日本でも取り入れられたらいいなと思うものもあります。

私に何ができるのか、分かるのはまだ先のこともかもしれません、目の前のことを一つずつ、一緒に考えていきたいです。